



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



2021年 5月13日朝刊

記事を読んで、問いに答えなさい。解答は裏面に記すこと。

ニュースBOX

受験期襲ったコロナ差別



校名を挙げた書き込みは現在もウェブ上に残っている

県内 校名公表で誹謗中傷

学校における新型コロナウイルスのクラスター（感染者集団）として、今年1月に県内で初めて校名が公表された県立静岡城北高（静岡市葵区）には、学校や生徒への誹謗（ひぼう）中傷が相次いだ。受験シーズンのなか、濃厚接触者でない生徒も行動を制限され、制服を着るべきではなかった。『感染者を排除したい』という差別意識は、いっしょには断つことができるのか。

校内で初めて感染者が確認されたのは1月19日。散發的に生徒や教職員の感染確認が続く。学校は臨時休業措置を取り、市保健所は感染状況把握のため全校の任意検査を決めた。29日にクラスター認定がテレビや新聞で大々的に報道されると、SNS上にも辛辣（しんさん）な言葉が並んだ。市や県教委の会見で検査を希望しない生徒がいると説明されると「受けさせろ」と迫る電話も。渡辺紀之校長は当時「検査を受けたくない生徒が悪者にされ、つらかった」と振り返る。

水道の蛇口の共用など校内での接触感染の可能性が指摘され、学校は業者が消毒作業を委託。休校中校内ではさみだれ式に検査の希望者が増えた。教員は唾液の採取容器に名前シールを貼るなどの準備や立ち会、保健所への運搬など本来とは違う業務に追われた。

市や県教委の会見で検査を希望しない生徒がいると説明されると「受けさせろ」と迫る電話も。渡辺紀之校長は当時「検査を受けたくない生徒が悪者にされ、つらかった」と振り返る。

水道の蛇口の共用など校内での接触感染の可能性が指摘され、学校は業者が消毒作業を委託。休校中校内ではさみだれ式に検査の希望者が増えた。教員は唾液の採取容器に名前シールを貼るなどの準備や立ち会、保健所への運搬など本来とは違う業務に追われた。

市や県教委の会見で検査を希望しない生徒がいると説明されると「受けさせろ」と迫る電話も。渡辺紀之校長は当時「検査を受けたくない生徒が悪者にされ、つらかった」と振り返る。

水道の蛇口の共用など校内での接触感染の可能性が指摘され、学校は業者が消毒作業を委託。休校中校内ではさみだれ式に検査の希望者が増えた。教員は唾液の採取容器に名前シールを貼るなどの準備や立ち会、保健所への運搬など本来とは違う業務に追われた。

市や県教委の会見で検査を希望しない生徒がいると説明されると「受けさせろ」と迫る電話も。渡辺紀之校長は当時「検査を受けたくない生徒が悪者にされ、つらかった」と振り返る。

水道の蛇口の共用など校内での接触感染の可能性が指摘され、学校は業者が消毒作業を委託。休校中校内ではさみだれ式に検査の希望者が増えた。教員は唾液の採取容器に名前シールを貼るなどの準備や立ち会、保健所への運搬など本来とは違う業務に追われた。

市や県教委の会見で検査を希望しない生徒がいると説明されると「受けさせろ」と迫る電話も。渡辺紀之校長は当時「検査を受けたくない生徒が悪者にされ、つらかった」と振り返る。

ウィズへ転換

季節性インフルエンザは既に集団感染が起きて学級閉鎖になつても会費を聞くようなことはない。感染者に向き合ってきた感染症専門医にとり「なぜこれほど大々的に行うのか」と疑問を抱いた1年だった。

同校を支援し、病院としてこれまで多数の患者を受け入れてきたふじのくに感染症医療センター（FIC）の岩井一也医師「静岡市立静岡病院感染管理室長は、感染排除の『ゼロ・コロナ』から感染は撲滅できない『ウィズ・コロナ』への意識の転換を提唱する。『それとなつて感染防止』という論調が『感染者の過失を責める風潮を生んでいる』と指摘し、これも警鐘を鳴らす。『行動を自制している人ほど他者の感染を許さず、攻撃してないか。施設や事業所は、クレーン対処としての過剰な対策が、結果的に差別や偏見意識を助長してしまう』

同校を支援し、病院としてこれまで多数の患者を受け入れてきたふじのくに感染症医療センター（FIC）の岩井一也医師「静岡市立静岡病院感染管理室長は、感染排除の『ゼロ・コロナ』から感染は撲滅できない『ウィズ・コロナ』への意識の転換を提唱する。『それとなつて感染防止』という論調が『感染者の過失を責める風潮を生んでいる』と指摘し、これも警鐘を鳴らす。『行動を自制している人ほど他者の感染を許さず、攻撃してないか。施設や事業所は、クレーン対処としての過剰な対策が、結果的に差別や偏見意識を助長してしまう』

同校を支援し、病院としてこれまで多数の患者を受け入れてきたふじのくに感染症医療センター（FIC）の岩井一也医師「静岡市立静岡病院感染管理室長は、感染排除の『ゼロ・コロナ』から感染は撲滅できない『ウィズ・コロナ』への意識の転換を提唱する。『それとなつて感染防止』という論調が『感染者の過失を責める風潮を生んでいる』と指摘し、これも警鐘を鳴らす。『行動を自制している人ほど他者の感染を許さず、攻撃してないか。施設や事業所は、クレーン対処としての過剰な対策が、結果的に差別や偏見意識を助長してしまう』

同校を支援し、病院としてこれまで多数の患者を受け入れてきたふじのくに感染症医療センター（FIC）の岩井一也医師「静岡市立静岡病院感染管理室長は、感染排除の『ゼロ・コロナ』から感染は撲滅できない『ウィズ・コロナ』への意識の転換を提唱する。『それとなつて感染防止』という論調が『感染者の過失を責める風潮を生んでいる』と指摘し、これも警鐘を鳴らす。『行動を自制している人ほど他者の感染を許さず、攻撃してないか。施設や事業所は、クレーン対処としての過剰な対策が、結果的に差別や偏見意識を助長してしまう』

同校を支援し、病院としてこれまで多数の患者を受け入れてきたふじのくに感染症医療センター（FIC）の岩井一也医師「静岡市立静岡病院感染管理室長は、感染排除の『ゼロ・コロナ』から感染は撲滅できない『ウィズ・コロナ』への意識の転換を提唱する。『それとなつて感染防止』という論調が『感染者の過失を責める風潮を生んでいる』と指摘し、これも警鐘を鳴らす。『行動を自制している人ほど他者の感染を許さず、攻撃してないか。施設や事業所は、クレーン対処としての過剰な対策が、結果的に差別や偏見意識を助長してしまう』

同校を支援し、病院としてこれまで多数の患者を受け入れてきたふじのくに感染症医療センター（FIC）の岩井一也医師「静岡市立静岡病院感染管理室長は、感染排除の『ゼロ・コロナ』から感染は撲滅できない『ウィズ・コロナ』への意識の転換を提唱する。『それとなつて感染防止』という論調が『感染者の過失を責める風潮を生んでいる』と指摘し、これも警鐘を鳴らす。『行動を自制している人ほど他者の感染を許さず、攻撃してないか。施設や事業所は、クレーン対処としての過剰な対策が、結果的に差別や偏見意識を助長してしまう』

同校を支援し、病院としてこれまで多数の患者を受け入れてきたふじのくに感染症医療センター（FIC）の岩井一也医師「静岡市立静岡病院感染管理室長は、感染排除の『ゼロ・コロナ』から感染は撲滅できない『ウィズ・コロナ』への意識の転換を提唱する。『それとなつて感染防止』という論調が『感染者の過失を責める風潮を生んでいる』と指摘し、これも警鐘を鳴らす。『行動を自制している人ほど他者の感染を許さず、攻撃してないか。施設や事業所は、クレーン対処としての過剰な対策が、結果的に差別や偏見意識を助長してしまう』

同校を支援し、病院としてこれまで多数の患者を受け入れてきたふじのくに感染症医療センター（FIC）の岩井一也医師「静岡市立静岡病院感染管理室長は、感染排除の『ゼロ・コロナ』から感染は撲滅できない『ウィズ・コロナ』への意識の転換を提唱する。『それとなつて感染防止』という論調が『感染者の過失を責める風潮を生んでいる』と指摘し、これも警鐘を鳴らす。『行動を自制している人ほど他者の感染を許さず、攻撃してないか。施設や事業所は、クレーン対処としての過剰な対策が、結果的に差別や偏見意識を助長してしまう』

同校を支援し、病院としてこれまで多数の患者を受け入れてきたふじのくに感染症医療センター（FIC）の岩井一也医師「静岡市立静岡病院感染管理室長は、感染排除の『ゼロ・コロナ』から感染は撲滅できない『ウィズ・コロナ』への意識の転換を提唱する。『それとなつて感染防止』という論調が『感染者の過失を責める風潮を生んでいる』と指摘し、これも警鐘を鳴らす。『行動を自制している人ほど他者の感染を許さず、攻撃してないか。施設や事業所は、クレーン対処としての過剰な対策が、結果的に差別や偏見意識を助長してしまう』

記者の目

国内初感染から1年以上過ぎた。累計感染者は全国で65万人。県内だと7千人を超えた。「いつ誰が感染してもおかしくない」と言われる今まさに、新型コロナに「感染した」と簡単に言い出せない空気が漂う。

根絶の機運 社会全体で

「ちを守るため」の悪意のない差別が、静岡城北高の生徒を傷つけた。塾や受験先の大学の対応など、生徒が直面したのは後者の方だったのかも知れない。本来最も応援されるべき受験の時期に、生徒はもちろん、保護者や学校関係者もつらかったらう。

関係者への取材では、本紙を含むマスコミの校名報道と被害の関連を指摘する（社会部・大須賀伸江）

- ①「感染者を排除したい」という差別意識は、どうすれば断つことができるのか、もし自分の母校から感染者が出た場合を想定して考察せよ。
- ②「悪意のない差別」が発生してしまう社会情勢と集団心理の関連性を考察せよ。
- ③差別と中傷を根絶する機運を報道と共に高校生が醸成していくためには、どのような行動を起こせばよいのか考察せよ。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石克巳（静岡高校 教諭）（高校／国語）

<参考>①＝地域行政学、教育学、社会学、心理学、医学に関する問題、②＝地域行政学、教育学、社会学、心理学、医学に関する問題、③＝教育学、情報学、社会学、心理学、地域行政学に関する問題